

平成29年度

学習と評価の手引き

3年生

京都市立太秦中学校

～目次～

家庭学習について まとめテスト前の学習のポイント 評価・評定について

国語

社会

数学

理科

音楽

美術

保健体育

技術家庭

英語

年間学習内容

家庭学習について

1. 毎日欠かさず家庭学習に取り組みましょう

太秦中学校では、毎日A4サイズの家庭学習課題プリントが1枚程度出されています。(国・社・数・理・英の5教科です。)毎日家で取り組み、翌朝提出して下さい。点検を受け返却されたプリントは家庭学習ファイルに綴じて管理しましょう。まとめテストの学習にも役立てて下さい。また、課題プリントだけにとどまらず、自主勉強もすすめられるとさらにいいですね。

2. 日々の学習は復習に重点を

①ノート・ワークシートの完成と整理

ノートやワークシートは黒板の内容を写すだけでなく、大切なことをメモしたり自分なりの工夫を付け加えたりして、学習の参考書となるようにしましょう。単元(学習内容のまとめ)ごとに整理して、まとめ直すことで理解が深まります。

②基本事項をしっかり覚えよう

重要語句・漢字・地名・年号・公式・法則・英単語・用具の名称などの学習の基礎となる知識は正確に覚えるようにしましょう。確実に覚えるには単語カードを活用したりノートに一問一答式でまとめなおしたりするのも有効です。

③問題を解く

教科書の練習問題や章末問題、副教材の問題集、授業で配られた問題プリントなどで練習問題に取り組み、「自分の間違い方」を知りましょう。問題を解くことで間違った理解の仕方に気付いたり、自分の弱点を知ったり、学習を効果的に進めることができます。

～効果的な復習とは～

・基礎からレベルアップしていく

いきなり高度なことから手をつけるよりも、基礎・基本を身に付けてから少しずつレベルアップしていった方が結果的には早く学習内容を習得できます。「急がば回れ」がポイントです。

・復習は繰り返し行う

復習は、授業を受けた日・単元の区切り・まとめテストの前・・・というふうに繰り返し何度も行うことで効果が高まります。学んだことはテスト直前まで放置せず、定期的に問題集に取り組むなどして定着させましょう。

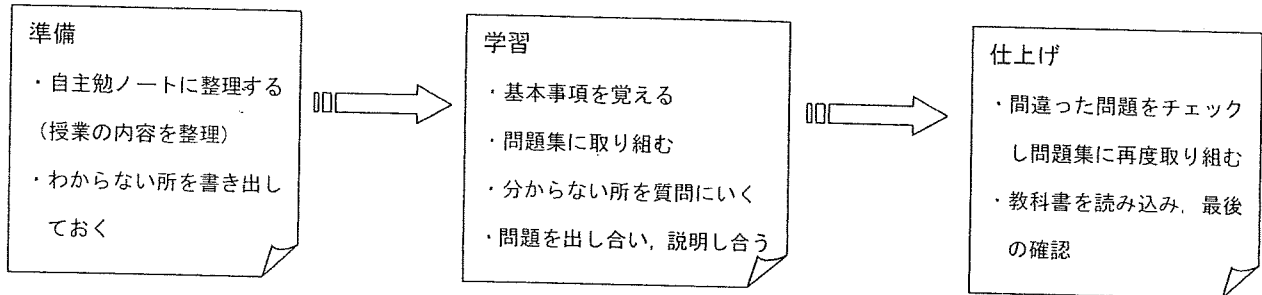
・五感をフル活用する

例えば、漢字や英単語を覚える時、ただ目で見えて読んで覚えようとしてもなかなか頭に入りません。必ず手を動かして書き、声に出して読む、というようにして覚えましょう。視覚だけでなく触覚・聴覚など五感をフル活用することで記憶が強化されます。

まとめテスト前の学習のポイント

1. しっかりとした学習計画をたてよう

部活動が停止になる1週間前あらテスト勉強では、十分とは言えません。2週間前を目安に学習計画を立てましょう。2週間を以下のように三段階に分けて取り組むと効果的です。



毎日の学習についてタイムスケジュールを事前にしっかりと組むことで「この教科に何時間取り組めるか」ということがハッキリと分かり、学習を進めやすくなります。

2. 課外学習会を利用しよう

まとめテスト前に課外学習会が開かれます。原則として自学自習の形式で行いますが、学習内容に関して分からないところがあれば質問することもできます。参加の際は学習に必要な教科書や問題集などを忘れないようにしましょう。「自宅では集中して学習ができない。」「家ではついテレビを見たりゲームをしたりしてしまう。」といったタイプの人には特におすすめします。

3. 学習環境や体のコンディションに気を配ろう

学習の邪魔になるもの(ゲームやマンガなど)は遠ざけ、集中して学習できる環境をつくりましょう。あらかじめ決めた時間の勉強をやりきるため、時計を目に付くところに置くなどしてもよいでしょう。また、栄養・睡眠をしっかりと取り、夜更かしや徹夜での勉強はしないようにしましょう。人間の脳は、昼間に得た情報や記憶を夜、寝ている間に整理し、必要と判断したものだけを保管するという性質があるそうです。テスト前でもしっかり睡眠時間を取るようにしましょう。

評価・評定について

太秦中学校では、年に5回のまとめテストが実施されます。(5, 6, 10, 11月と3年生は1月, 1・2年生は2月に実施予定) 通知表は年度末の3月に渡されます。夏休み前・冬休み前には三者懇談が予定されており、懇談資料としてその時点での評価・評定が出されます。区切りごとに自分の成績を把握し、年度末の自分の成績アップにつながるよう学習の励みにして下さい。

観点別学習状況の評価（目標に準拠した評価）

各教科の目標に基づいて設定された観点について、その達成状況の評価してあります。

A：十分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する

評定（目標に準拠した評価）

各教科の観点別学習状況の評価に基づいて、それを総括して評価してあります。

5：十分満足できるもののうち、特に程度の高いもの

4：十分満足できるもの

3：おおむね満足できるもの

2：努力を要するもの

1：一層努力を要するもの

* 総合的な学習の時間の評価は、1年間の取り組みを総括して年度末の通知表に文章表記します。

* 道徳の評価は、道徳の時間に何を学ぶことができたかを、学期ごとに文章表記します。

* 育成学級の評価については、個々の生徒の発達の程度を考慮した上で目標を設定し、どの程度その目標に到達したかを評価し、文章表記します。

3 年国語科

1. 学習のアドバイス

・国語科の授業で学習すること

「読む」「聞く」…他者の述べていることを正確に理解して自分の中に取り入れる。

「書く」「話す」…自分のいいたいこと・感じていることを他者に正確に理解してもらう。

書写においては、日本語を美しく書く。

「知る」…漢字、文法、語句などを学び、適切に使えるようになる。

そして「感じる」「考える」…すべての学習の基本になります。多くのことを感じ、考え、心と感性を豊かにしていこう。3年生は1・2年での学習を基礎としてさらに多くの種類の書物にふれ、読書量を増やしていきましょう。

・国語科の学習方法

予習	・学習しているところを読む。わからない漢字、語句などは調べておく。 ・読んでわからないところ、疑問に思ったところなどをノートにメモしておく。
授業	・プリント、課題などにしっかり取り組む。 ・黒板に書かれた内容をしっかりとノートに書く。ノートはいろいろと工夫しよう。黒板に書かれない内容でも重要なことはノートにさっとメモしよう。 ・「予習」の際のメモの内容を解決しよう。 ・スピーチなどの活動には積極的に取り組もう。 ・文章を書くときは、常に読む手に伝わるかを意識しましょう。また、人の書いた文章のいいところは取り入れましょう。
復習	・その日の学習内容をノートを見ながら振り返り、授業内容をしっかりと理解する。 ・漢字や語句などは自主勉強で身につけよう。
テスト前	・テストで出題される内容は、授業でやったことがほとんどです。ノートやプリントを見直してポイントをまとめておこう。また、教科書を何度も読んでおこう。漢字や語句、文法に関する内容は何度もやり直そう。繰り返し学習することが大切です。
テスト後	・問題用紙、解答用紙、模範解答などをしっかりと保管しておこう。必要であればやり直すことも大事です。なぜ自分が間違えたのかを理解して、次のステップに進もう。
その他	・提出物は必ず期限を守って出すこと。 ・朝読書の時間だけではなく、自分で時間を見つけて読書をしよう。その際同じようなジャンルに偏ることなく、古今東西のいろいろな種類の本を読もう。 ・国語で学習する内容は日本の文化とも大きな関係があります。いろいろな知識を常に吸収しよう。

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ…「国語への関心・意欲・態度」(国語に対する関心を深め、国語を尊重し、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。)

評価項目 ◇ノート ◇授業中の様子 ◇宿題 ◇提出物 ◇発表 ◇テスト

観点Ⅱ…「話す・聞く能力」(自分の考えを豊かにしたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話せたり的確に聞き取れたりする。)

評価項目	◇表現 ◇グループでの話し合い ◇発表 ◇聞き取りテスト 等
観点Ⅲ…「書く能力」(自分の考えを豊かにしたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書ける。)	
評価項目	◇定期テスト ◇作文 ◇ノート ◇ワークシート 等
観点Ⅳ…「読む能力」(目的に応じて様々な文章を的確に読み取れたり読書に親しんだりすることができる。)	
評価項目	◇定期テスト
観点Ⅴ…「言語についての知識・理解・技能」(表現と理解に役立てるための音声、語句、語彙、文法、漢字等について理解し、知識を身に付けている。書写では、文字を正しく整えて速く書ける。)	
評価項目	◇定期テスト ◇書写 ◇小テスト ◇作文 等

3年 社会科

1. 学習のアドバイス

・社会科の授業で学習すること

3年生の社会科では、近現代史（歴史的分野）と経済や国のしくみについて（公民的分野）を学びます。特に公民的分野は、今まさに生きているこの社会のしくみと理念を学習します。広い視野を持って、様々な情報から必要な情報を読み取り、自分で考える…そんな学習をしていきましょう。

・社会科の学習方法

予習	教科書を事前に読んで、分からない語句が出てきた場合は色をつけておく。授業で意味をチェックできるように。
授業	始まる前にノート、ファイル、教科書を準備。集中して先生や他のクラスメイトの話を聞く。ノートやプリントにはどんどんメモをとっていく。質問や、疑問など、挙手をして発言する。授業の最後のまとめは自分の言葉で、わかったことを説明する。
復習	その日習ったこと、分かったことをその日のうちに確認、整理し理解するよう心がける。
テスト前	まずは教科書の範囲をしっかりと読み込む。語句だけを覚えるのではなく、物事のつながりをつかむことを意識する。問題を出し合う場合は「〇〇について説明して。」「〇〇はどういうものか。」という問題を出し合う。
テスト後	テストは必ず残しておく。もう一度最初から解いてみて、それでも分からなかったところは苦手なところなので、教科書やノート、プリントで確認する。
その他	重要語句を基礎知識として、覚えることは必ず必要。しかし、覚えた重要語句の意味や、なぜその制度が必要なのか…などは覚えるではなく、理解。そしてそれを、自分の言葉で表現することができるということ大事なこと。「社会科＝暗記」ではない。

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ…社会的事象への関心・意欲・態度（学習への取り組みの姿勢を評価します。）	
評価項目	◇提出物（ファイルやノート） ◇授業でのようす
観点Ⅱ…社会的な思考・判断・表現（与えられた情報をまとめたり、説明したりする力を評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇レポート
観点Ⅲ…資料活用の技能（資料を読み取り、利用する力を評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇小テスト
観点Ⅳ…社会的事象についての知識・理解（重要語句の名前や意味を覚えられているかを評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇小テスト

3年 数学科

1. 学習のアドバイス

- ・数学科の授業で学習すること

数学的な活動を通して

①数量や図形に関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得する。

→公式や法則を使って問題を解決できるようになることが大切。

②事象を数理的に考察し表現する能力を高める。

→日常生活の事象を数学の手法を使って効率的に処理することができるようになる。

③数学的活動の楽しさや数学の良さを実感する。

→数学が生活に役立つことを実感し、意欲的・主体的に学習に取り組む姿勢を育む。

④①～③を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

→数学を活用して考えたり判断したりすることに主体的に取り組むことが必要不可欠。

・数学科の学習方法

予習	あらかじめ、次の授業でどんな内容を学習するのかを確認しておく。
授業	黒板に書かれている内容をノートにまとめ、できれば口で説明した部分についてもメモしておく。各自で問題を解くときにはじっくり考え、グループワークのときは意見を活発に出し合い、発表する。
復習	その日に習った内容をノートにもう一度解き、問題集を使って定着させる。教科書をフルに活用し、授業でやっていない練習問題、章末問題などにも取り組みましょう。
テスト前	主にノートを活用して、学習内容をしっかりふり返る。教科書の練習問題、問題集（リピー）を使って、くり返し問題を解く。また、テストのための勉強だけではなく、入試にもつながる勉強の仕方をする。
テスト後	問題用紙、解答用紙を1年間保存しておく。“鉄は熱いうちに打て” テストの次の時間の授業で、間違えたところを洗い出し、次はできるように努力する。
その他	数学は問題に数多くふれるのが大事。解けば解くほど、数学の力は必ずついていきます。“シャーペンの芯をどれだけ減らすことができるか”がキーワード。予習よりも復習の方が大事。授業を受けた後にどれだけ多くの種類の問題に触れることができるかが重要です。

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ…数学への関心・意欲・態度	
評価項目	◇授業での様子 ◇ノート、リピー、その他の提出物
観点Ⅱ… 数学的な見方や考え方	
評価項目	◇まとめテスト
観点Ⅲ…数学的な技能	
評価項目	◇まとめテスト
観点Ⅳ…数量や図形などについての知識・理解	
評価項目	◇まとめテスト

3年 理科

1. 学習のアドバイス

・理科の授業で学習すること

3年生の理科では、運動とエネルギー（物理分野）・生命のつながり（生物分野）・化学変化とイオン（化学分野）・地球と宇宙（天体・地学分野）について学びます。理科は苦手な分野もあれば、得意な分野もあります。自然の中からいろいろな法則や知識を得ることで、生きていく上で有用なこともあり、正しい判断を行うことにもつながります。正しく理解し、判断したり、表現したりする力を理科を通して身につけましょう。

・理科の学習方法

予習	教科書を一度読んでおくと、中身やその説明がより分かりやすいはずですが。分からないことは放っておかず、調べる癖をつけると身につくことも多くなります。
授業	プリントを使って行います。大切な話や板書することをノートに写しておく。実験や観察をする時には、重要なポイントや注意点・操作方法を理解しておく。
復習	授業プリントやノートを見直す。プリントやノートの内容を人に説明するとより記憶に残ります。重要語句をまとめておくと、テスト前に助かります。
テスト前	問題集を使って、各単元の基礎問題から、応用問題まで解く練習をして、分からないものは回答の解説を見たり、分かる人に聞いて理解しておく。
テスト後	テストはファイリングして保存しておく。間違えた問題の直しをしておく。
その他	理科は全部分かるようになるより、好きな分野を深めて行って、余裕をもって、苦手分野に取り掛かろう。苦手分野は、よく分かっている人に教えてもらったり、コツを聞くのもいいかもしれません。

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ…自然事象への意欲・関心・態度（学習への取り組みの姿勢を評価します。）	
評価項目	◇提出物 ◇授業での様子
観点Ⅱ…科学的な思考・表現（与えられた情報をまとめたり、説明したりする力を評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇実験プリント・レポート
観点Ⅲ…観察・実験の技能（観察や実験の際の器具の使い方・方法・行動について評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇観察・実験時の授業の様子 ◇実験プリントレポート
観点Ⅳ…自然事象についての知識・理解（重要語句や意味がわかっているかを評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇小テスト

3年 音楽科

1. 学習のアドバイス

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・音楽科の授業で学習すること | <p>音楽活動の楽しさや感動を体験することを通して将来にわたって音楽を愛好する力が身に付くようにします。最後の合唱コンクールでは心が震えるくらい感動できる合唱を目指しましょう</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・音楽科の学習方法 | |

予習	学習する楽曲や、作曲者など調べておく
授業	「音楽を楽しむ心」を持って入室し一生懸命その日の内容に取り組むこと
復習	新しく覚えたことなど歌やリコーダーで確認。次の時間楽しく演奏できるようにしよう
テスト前	授業で出されたプリント、教科書に書き込んだことなど確認しておく。
テスト後	振り返りを大切にし、間違いは確実に理解できるようにしておく。 テストに関する資料は大切に保存しておこう
その他	実技テストは自分の力がしっかり発揮できるようまた、さらに曲想を生かして表現できるよう日頃からよく歌い、リコーダーは練習してください。

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ… 音楽への関心・意欲・態度	
評価項目	◇「演奏するとき」「話を聞くとき」「鑑賞するとき」それぞれの学習場面に対してけじめをつけ関心を持って意欲的に取り組むことができる。◇観点Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの基準に意欲的に取り組み、それぞれの目標をクリアしている。 評価方法：まとめテスト 1、3、・授業での様子・学習プリント・実技テスト・振り返りシート
観点Ⅱ… 音楽表現の創意工夫	
評価項目	◇音楽表現に必要な基本的な事項（速度、拍子、調、リズム、アーティキュレーション、記号の意味など）を理解し、表現の工夫を考え、実践することができる。 ◇曲に込められた意図を感じ取り、フレーズ、音のつながりや歌詞を生かす基礎知識を身に着けたうえで、どのように表現するか思いや意図をもって工夫することができ、具体的に述べることができる。 評価方法：授業中の活動・まとめテスト 1、3・学習プリント・実技テスト・授業テストなど
観点Ⅲ… 音楽表現の技能	
評価項目	◇ 創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ歌唱、器楽で表現できる ◇ 正しい姿勢で正しい音程、豊かな声量、豊かな表情で演奏できる。 ◇ 楽曲が持っている音楽的な特徴を生かして曲想豊かに表現できる。 ◇ 正しい音程感や豊かな音楽センスを持ち、自分のパートの旋律やリズム音程を歌やリコーダーで表現するだけでなく他のパートとの関わり感じ、その意見を述べることができる（Ａ） 評価方法：授業中の活動・まとめテスト 1、3・学習プリント・実技テスト・実技チェックなど
観点Ⅳ… 鑑賞の能力	
評価項目	◇ 音楽の響き、楽器や声の特徴をを理解して音楽表現の豊かさを感じ、その良さを具体的に述べるができる ◇ 音楽の特徴、その背景となる文化や歴史、また他の芸術と関連付けて理解し鑑賞できる。 ◇ 合唱など自分たちの演奏を正確に客観的に聴くことができその良さや課題点を挙げるができる。 評価方法：授業中の活動・まとめテスト 1、3・学習プリント・夏課題など

3年 美術科

1. 学習のアドバイス

・美術科の授業で学習すること

- ① 美術に親しみ、表現する・作品を味わうという幅広い活動を通して、感性を豊かにし、自分らしい表現をすることの喜びを味わおう。
- ② 作品のよさを味わったり、文化について理解を深めたりすることによって、認め合う心を育てよう。
- ③ 美術に関する基本的知識・描き方・作り方を知り、制作に役立てよう。

それぞれの持っている力を、どれだけ真剣に取り組み、自分の力を伸ばせるか。どれだけ作品の良さに気づき、感じたこと考えたことを文章や言葉で表現できるか。美術では、その力を大切にしていきます。

・美術科の学習方法

予習	課題のための資料やアイデアを、実際の制作・作業を始める前に準備しておくことが大切です。身の回りのもので利用できそうなもの、参考になりそうなものを注意深く探し、アイデアを集めておくようにしましょう。
授業	教科書、資料集、ワークシート等を使って学習します。 単元によってポスターカラーを使用する事もあります。
復習	作品や作者、表現方法などについて、教科書や資料集を見直し理解を深める。
テスト前	授業で学習したことを中心に、資料集、教科書、配布したプリント類などをきちんと確認しよう。
テスト後	問題用紙、解答用紙は保存しておき、間違えたところはきちんと理解できるようにしておこう。
その他	忘れ物をしないこと。 提出物は必ず期限を守って出すこと。

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ…「美術への関心・意欲・態度」(主体的な学習への取り組み)	
評価項目	◇ワークシート ◇授業中の様子(発表含む) ◇宿題・提出物 ◇テスト 等
観点Ⅱ…「発想や構想の能力」(感性や想像力を働かせ、構成などを工夫し、表現の構想を練っているか)	
評価項目	◇ワークシート ◇アイデアスケッチ ◇テスト 等
観点Ⅲ…「創造的な技能」(材料や用具を生かし、制作の順序を考えるなどして創意工夫しているか)	
評価項目	◇作品 ◇ワークシート ◇アイデアスケッチ ◇テスト 等
観点Ⅳ…「鑑賞の能力」(造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取れるか)	
評価項目	◇鑑賞シート ◇ワークシート ◇テスト 等

3年 保健体育科

1. 学習のアドバイス

・保健体育科の授業で学習すること

保健では、「健康な生活と病気の予防」の単元を学びます。具体的には、健康に関する食事や運動習慣、生活習慣を、どのように良いものにしていくのか考えたり、さまざまな病気や感染症、その予防法について学んだりします。授業を終えて身に付けた知識を、普段の自分の生活に生かし、自分の生活や心身の状態をより良くしていきましょう。

体育では、さまざまな競技を通して、特性に触れ、基本的な運動習慣を身に付けましょう。卒業しても続けていきたいと思える、自分に合ったスポーツを見つけていきましょう。

・保健体育科の学習方法

予習	「新編 新しい保健体育」、「中学体育実技」の教科書を見ておく。
授業	男女共習で行い、グループ活動を通して、目標達成や課題解決を目指す。
復習	教科書、授業プリントを復習する。
テスト前	授業で行った内容を復習する。テスト前に配布されたプリントなども活用する。
テスト後	テスト問題で間違えたところを見直しし、理解する。
その他	

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ…関心・意欲・態度（学習への取り組みの姿勢を評価します。）	
評価項目	◇提出物 ◇授業でのようす
観点Ⅱ…思考・判断・表現（課題について、まとめたり、説明したりする力を評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト ◇レポート ◇授業のようす
観点Ⅲ…技能（基本的な動きや効率のよい動きを身につけられているかを評価します。）	
評価項目	◇実技テスト ◇授業でのようす
観点Ⅳ…知識・理解（重要語句の名前や意味、スポーツのルールなどを覚えられているかを評価します。）	
評価項目	◇まとめテスト

3年 技術・家庭科

1. 学習のアドバイス

・技術・家庭科の授業で学習すること

○生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術のかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

○生活の自立と共生を目指す。

・技術・家庭科の学習方法

予習	日常の家庭の生活に興味を持つ。
授業	授業時間を大切にする。話を集中して聞く。指示に従い積極的に行動する。特に作業の際には、衛生、安全に気をつけて行動する。提出物、提出プリントは必ず名前を記入し、提出日・提出時間を守る。学習プリントには授業の話で大切なことをメモする。
復習	学習したことを家庭生活で生かす工夫をする。日常の家庭の仕事をすすんで行う。
テスト前	授業でのポイントを復習し、おぼえる必要のあるものを覚える。学習プリントを中心に学習する。
テスト後	問題用紙、解答用紙を保存し間違ったところを理解する。
その他	生活の中から課題を見つけ、学習したことなどを生かし、解決するというプロセスを繰り返してより快適な生活をつくっていく。

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ…生活や技術への関心・意欲・態度	
評価項目	◇提出物 ◇実習の様子
観点Ⅱ…生活を工夫し創造する能力	
評価項目	◇まとめテスト ◇提出物
観点Ⅲ…生活の技術	
評価項目	◇まとめテスト ◇実習・作品
観点Ⅳ…生活の技術についての知識・理解	
評価項目	◇まとめテスト ◇小テスト

3年 英語科

1. 学習のアドバイス

・英語科の授業で学習すること

- ①積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を高める活動を行う。
→英語で話そうとしたり、英語を聞き取ろうとしたりする前向きな姿勢が大切。
- ②自分の考えや思いなど、伝えたいことを話したり、書いたりして表現する。
→学んだ英語表現を用いて、正しい文章で伝えられる力が必要。
- ③相手が伝えようとしていることを聞いたり、読んだりして理解する。
→学んだ英語表現が用いられた英文を聞き取り、少し長いまとまった文章が読み取れるようになる。
- ④学習を通じ、言語やその使い方についての知識を身に付けたり、その背景にある文化について知る。
→単語や熟語、会話でよく用いられる表現、文法等を学ぶ。

・英語科の学習方法

予習	・あらかじめ教科書などを使い、次にどんな勉強をするのかを確認しておこう。 ・新しい単語などは、自主勉強用ノートに意味を調べて書いておこう。
授業	・授業で使われる英語を、しっかり聞く。 ・黒板に書かれた内容を、確実にノートやワークシートにまとめる。 ・英語を使った活動などに、積極的に取り組む。
復習	・その日に学習したことは、家に帰って見直し、新しい単語や表現を覚えよう。 ・その日に習った教科書の本文や以前に習った教科書の本文など、音読練習も大切。
テスト前	・授業用ノートや自主勉強用ノートを用いて、学習内容をしっかり振り返ろう。 ・理解したことを確認するために、練習問題に取り組もう。
テスト後	・問題用紙、解答用紙などを、しっかりと保存しておこう。 ・振り返りを大切にし、間違ったところは確実に理解できるようにしておこう。
その他	・提出物は、締め切りに間に合うように準備しよう。 ・テレビ、図書、インターネットなどで英語に触れる機会を増やそう。 ・高校、大学でも英語は必須です。中学校で習う英語で簡単な日常会話ができる力がつきます。あきらめずに学習しよう。 ・単語テスト、リーディングテスト、まとめテスト以外にも、「学習確認プログラム」もあります。こうした機会も大切にしよう。

2. 観点別評価の各観点の意味と評価方法

観点Ⅰ…コミュニケーションへの関心・意欲・態度（授業中や家庭学習での頑張りを評価）	
評価項目	◇授業中の活動・リーディングテスト・スピーキングテスト・まとめテスト等
観点Ⅱ…表現の能力（英語で自分が伝えたいことを話せる・書ける）	
評価項目	◇授業中の活動・リーディングテスト・スピーキングテスト・ノート・まとめテスト
観点Ⅲ…理解の能力（英語の文章を読んだり、聞いたりして内容が理解できる）	
評価項目	◇授業中の活動・まとめテスト
観点Ⅳ…知識・理解（単語・文法・語法など、英語の知識がある）	
評価項目	◇授業中の活動・単語テスト・まとめテスト等

3年生学習内容一覧表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	深まる学びへ	視野を広げて	言葉を見つめる/読書生活を豊かに	状況の中で	いにしへの心と語らう	論旨を捉えて	読書に親しむ	未来へ向かって				
社会	歴史的分野 近代の日本と世界 現代の日本と世界			公民的分野 私たちの生活と政治 私たちの生活と政治 国民主権と日本の政治 私たちの生活と経済			公民的分野 国民の福祉 私たちと国際社会 私たちの課題					
数学	式の展開と因数分解	平方根	二次方程式	関数 $y = ax^2$			図形と相似	円の性質	三平方の定理	標本調査	三年間の復習	
理科	運動とエネルギー			生命のつながり	生命のつながり	化学変化とイオン	地球と宇宙	地球と宇宙	地球と宇宙	地球と宇宙	地球と宇宙	
音楽	日本語の抑揚の美しさを感じよう	諸外国の歌や音楽を味わおう	ポピュラー音楽の特徴を味わおう	曲の背景を知り名曲を味わおう	曲のしくみや歌詞と旋律との関わりを理解して表現を深めよう	様々な曲の特徴を理解し、表現を工夫しよう	日本の伝統芸能の良さを理解して魅力を味わおう	卒業への思いを歌詞に込めて表現しよう				
美術	手のスケッチ	シフティングの制作・鑑賞	日本美術史	はんこの制作	自画像 鑑賞・制作	西洋美術史	自画像制作	堆朱工芸 制作・鑑賞				
保健	体育理論	健康な生活と病気の予防	健康な生活と病気の予防	陸上競技・器械運動 体づくり運動	卓球	バスケットボール	バスケットボール	サッカー				
体育(男)	体づくり運動	バドミントン	バレーボール	水泳	陸上競技	卓球	バスケットボール	バスケットボール	バスケットボール	バスケットボール	バスケットボール	バスケットボール
体育(女)	体づくり運動	ソフトボール	バレーボール	水泳	陸上競技	卓球	バスケットボール	バスケットボール	バスケットボール	バスケットボール	バスケットボール	バスケットボール
家庭	幼児の生活と家族			幼児の生活と家族			幼児の生活と家族			幼児の生活と家族		
技術	コンピュータの仕組み	情報モラル	デジタル作品の制作	フローチャートの学習			ロボットの計測制御			ロボットの計測制御		
英語	unit1 daily presentation1	unit2 daily scene2	unit3 daily scene3 presentation2	let's read1 unit4 daily scene4	unit5 daily scene5	unit6 daily scene6	present ation3	let's read2	let's read3	3年間の復習		